

がん経験者外部講師を活用するがん教育のハンドブック

2021

# 知るからはじめる がんのこと

～未来のために伝えたい～

一般社団法人神奈川県がん患者団体連合会



# 「がん教育」における がん経験者の“語り”

文部科学省より公表されている「学校におけるがん教育の在り方について（報告）」ではがん教育の目標について「がんについて正しく理解することができるようにする」「健康と命の大切さについて主体的に考えることができるようにする」とされています。

上記の報告では「がんに関する科学的根拠に基づいた知識などの専門的な内容を含むがん教育を進めるに当たって、学校医や医療者などの外部講師の参加・協力を推進するなど、多様な指導方法の工夫を行うよう配慮する。がん経験者等の外部講師の参加・協力を推進する」とされており、外部講師の活用が勧められています。

がんの知識の普及や啓発について、医師などの外部講師が果たす役割が大きいです。一方で「がん患者はどのように治療を受け、どのように生活をしているのか」「がん患者はどのようなことを考え、どのような思いを持っているのか」ということへの理解には、がん経験者による“語り”の果たす役割が大きいと考えられます。

私たちは、自分たちの経験を社会的な価値と捉え、その声を教育現場から発信することにより、子どもたちががんの理解やがん患者に対する正しい認識を深めると共に、自身や大切な人のために、適切な態度や行動をとれる力を育むことに、つなげていきたいと考えています。



## 神奈川県がん連とは



一般社団法人  
神奈川県がん患者団体連合会  
理事長 天野 慎介

私たち神奈川県がん連は、神奈川県内のがん患者団体の連合体組織として、がん患者団体の連携や活動の促進を図りつつ、がん

患者と家族の治療やケア、生活や社会における課題の解決に取り組んでいます。ひいては、がん医療の向上とがんになっても安心して暮らせる社会を築くことを目指している、非営利型の一般社団法人です。

# 「がん教育ハンドブック」とは

文部科学省より公表されている「外部講師を活用したがん教育ガイドライン」には「健康や命の大切さをねらいとした場合は、がん患者やがん経験者による指導も効果的と考えられる」と明記されています。その中には、

- ・地域の専門家等の中から学校における講演等の実施者として相応の者をリストアップ
- ・外部講師を活用したがん教育の実施に向け、必要に応じて教育委員会等を通じ、学校との日程調整の支援等を行うこと

とあります。がん経験者が教育現場で話をする際に、配慮せずに経験談を語った場合、それが児童生徒に「マイナスの印象」を与えてしまうかもしれません。そのため、がん教育を初めて行う学校は、外部講師がどんな話をするのか、生徒の心情に配慮をした話をしてもらえるのか、そもそも誰に依頼をすれば良いのか、というこ

とに悩む可能性があります。

そんな先生方の思いに応え、神奈川県がん連では下記の取り組みを行い、外部講師を育成しています。

- ・教育／行政／医療関係者などを講師とした「がん教育研修会」の定期的実施
- ・上記研修会の修了者に対するフォローアップ研修を実施
- ・実践を想定した模擬授業を重ね、講義の質を高めた講師のみを外部講師として派遣
- ・外部講師のリストを毎年更新

このハンドブックには、外部講師の紹介や、外部講師が関わる授業の内容、ご依頼の仕方などを掲載しています。より良いがん教育を共に築いていくためのツールとしてご活用ください。

## 2人に1人ががんになると言われている現代。 子どもたちの生きるを応援する「がん教育」

インターネットなどの普及によって、さまざまな医療情報が提供されていますが、その情報のすべてが正しいものとは限らず、正しい知識を身につける機会はとても少ない状況と言えます。

### ●よく起こっていること

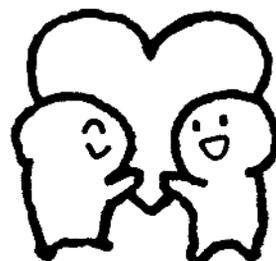
ある日突然、がんを告知されたり、感染症などの疾病に感染し、慌ててしまいどうすればよいかわからず、不安に怯えて途方に暮れることがあります。また、仕事をやめるように勧められたり、結婚を断られたり、偏見を持たれることもあります。

### ●そうならないために

まず、子どもたちに、がんに対する正しい理解を深めてもらい、私たちががん経験者の語りから、がん患者に対する理解を深め、接し方を知り、

自分事としてがんを捉えてもらいたいと思っています。そうすることで、がんやその他の疾病をむやみに怖がったり、当事者やその周囲に対しての偏見が生まれないことを願っています。

神奈川県がん連は、がん教育を通して、子どもたちの「生きる」を応援し、自分もみんなも大切にできる共生社会を目指します。



# 私たちもがん経験者の外部講師起用を 応援しています！

「健康と命の大切さ」を実感した  
経験者ならではのストーリーががん教育のカギに



東京大学医学部附属病院  
放射線科准教授/放射線治療部門長  
神奈川県がん教育協議会 座長

中川 恵一先生

がんは他人ごとではありません。年間100万人近くの人が新たにがんと診断されています。日本ではなぜ増えているのでしょうか。高齢化のほか、日本人ががんを知らないことが原因と考えます。がんはわずかな知識と、それに基づく行動によって、大きく運命を変えることができる病気だからです。切り札はがんを防ぐ生活習慣と早期発見のためのがん

検診をセットで行うこと。がん教育の現場において、教育関係者、医療者、患者さんと共にその目的に向かい走り始めています。神奈川県で大きく動き始めたがん教育。

それを知る一つの手段として、ぜひこの冊子を手にとってみてください。



神奈川県立がんセンター臨床研究所  
がん教育・がんサバイバーシップ支援研究ユニット長、博士（医学）  
神奈川県がん教育協議会 委員

片山 佳代子先生

文部科学省は、がん教育外部講師として「医療従事者とがん経験者」をあげています。中でも健康や命の大切さをねらいとした場合は、がん経験者らによる指導も効果的であると明記しています。そして、今回の学習指導要領改訂の中核にあるのは「社会に開かれた教育課程」です。

ぜひ、限られた時間数の中で教科間のつながりを利用し地域・家庭と連携しながら、がん教育を単なる知識の伝授だけでなく、命や健康のことを考え予測困難な時代を生きる力に変える、そんな教材として扱ってほしいと願っています。本冊子は、こうしたがん教育を実践するための必読書です！



日本女子体育大学教授  
文部科学省中学校学習指導要領解説保健体育編（平成29年7月）作成協力者  
神奈川県がん教育協議会 委員

助友 裕子先生

たばこやお酒はがんになるリスクを高めると言われますが、がん患者はたばこやお酒をやりすぎた人ばかりでしょうか？そして、今回の学習指導要領改訂の中核にあるのは「社会に開かれた教育課程」です。

健康と命の大切さを実感したがん患者ならではのストーリーから、「疾病等のリスク」を正しく学びましょう。

# 目次

がん教育におけるがん経験者の語り	1	11 若年がんを経験して、生きていくということ	20
がん教育ハンドブックとは	2	12 くじけそうになった時	
先生方の応援メッセージ	3	13 あるがまま	21
目次		14 今できる方法を考える	
県がん連で提供できる授業のかたち	5	15 今、知っておこうがんのこと	22
講師をご依頼いただくには	6	16 静けさと勇気と叡智	
実践例		17 がんを経験して気が付いたこと	23
①小田原市立芦子小学校	7	18 母さんの乳がん	
②横浜市立すすき野中学校	8	19 がんについて知ろう！	24
③横浜市立南希望が丘中学校	9	20 乳がんが私に教えてくれたこと	
④横浜市立南戸塚中学校	10	21 強く強く在れ	25
⑤横浜市立南希望が丘中学校	11	22 未来からのエール	
⑥神奈川県立二宮高等学校	12	23 がん患者の私から皆さんへ	26
⑦神奈川県立二俣川看護福祉高等学校	13	24 がんは嫌だが役にも立つ	
		25 私のがん体験～命の大切さ～	27
		26 がんを経験して気が付いたこと	
がん経験者外部講師紹介			
1 がんになって気が付いたこと	15		28
2 「ひとりじゃない」共に生きる！		外部講師依頼に関するQ&A	30
3 私の幸運	16	令和2年度がん教育研修会 開催報告	
4 血液のがんを経験して気が付いたこと			
5 今、がんの私から伝えたいこと	17		
6 今、大切にしていること			
7 なったらなくても	18		
8 光の先に見えた景色			
9 生きるちから	19		
10 がんになったとき、治療、その後			

# 神奈川県がん連が提供する 授業のかたち

私たちは、自分たちの経験を「社会的な価値」と捉え、全国の小・中学校、高等学校で進められているがん教育に、外部講師として協力しています。

神奈川県がん連の外部講師が経験しているがんは、肺がん、大腸がん、乳がん、すい臓がん、卵巣がん、リンパ腫、白血病、GIST、骨肉腫と実にさまざま。同じがん種でも歩みや想いは人それぞれです。

授業のかたちは、学校のご要望に応じて共に作ってまいります。ご依頼の際には、ぜひ皆さまのご希望・ご要望をお聞かせください。

## 授業の構成(例)

- ①がん経験者
- ②教員+がん経験者
- ③医師+がん経験者
- ④複数のがん経験者

## 私たちが提供できる内容(例)



## がん教育実施校

### 2018年度

- ・小学校1校（1講義）
- ・中学校1校（1講義）
- ・高等学校1校（1講義）

### 2019年度

- ・中学校6校（8講義）
- ・高等学校1校（1講義）

### 2020年度

- ・小学校1校（3講義）
- ・中学校4校（4講義）
- ・高等学校3校（4講義）

合計 18校（23講義）

7ページからの実践例では  
実際に行った授業のかたち  
を詳しくご紹介しています。

授業の組み立て方

構成と経験談の内容



## 講師をご依頼いただくには...

① 以下のご依頼フォームからお申し込みください（所要時間：約5分）

◎ ご記入頂きたい項目

- ・ 学校名
- ・ 対象学年と人数
- ・ (実施する) 科目名
- ・ 目的
- ・ 希望実施時期
- など

② 内容を確認し事務局よりご連絡いたします

ご担当の方と日程調整をし、事前に打ち合わせを行います。  
打ち合わせでは詳しいご希望をお聞かせ頂き、授業に沿った講義内容を組み立てます。より良い授業を作るために、丁寧な打ち合わせを大切にしています。

### 神奈川県がん連 がん教育事務局

ご依頼フォーム



<https://forms.gle/snQb35MEfswPuVCv8>

メール



[info@k-kgr.com](mailto:info@k-kgr.com)



2021年度は講師料と交通費は頂きません。  
この機会に、外部講師を用いた神奈川県がん連の  
がん教育をぜひお試しください。  
※講義内容などのご要望に基づいて調整するため、  
外部講師の人はこちらにお任せください。



# 実践例 ① 小田原市立芦子小学校

## 概要

科目 特別活動  
登壇者 教師・がん経験者  
構成 知識+経験談+Q&A



目標 「がんについての正しい知識を理解する」  
「生きること、健康と命の大切さについて考える」

経験談 がん患者のことを知ることで、健康と命の大切さについて主体的に考えることができるようにする

- 日時 2021年3月12日
- 人数 約80人3クラス
- 対象 6年生
- 時間 45分
- 場所 多目的室

## 構成

合計45分

### 1. 導入 (担任) 2分

- ・授業のねらいを伝える
- ・がんについての正しい知識と、がん経験者について理解することの重要性を喚起する

### 2. 展開 (担任) 15分

#### がん博士の「がんについての基礎知識」(映像資料)

- ・がんについての知識、特に「健康的な生活習慣による『予防』」と、「定期検診による『早期発見』」の重要性を伝える

### 3. 経験談 20分

- 「がんが教えてくれたこと」
- ・がんと知った時の気持ち
- ・乳がん治療と副作用
- ・つらかったこと、うれしかったこと
- ・私を支えてくれた人たち
- ・がんの後遺症になって
- ・どう乗り越えてきたか
- ・がんが教えてくれたこと

### 4. Q&A 2分

### 5. まとめ・ふり返り 6分

## 授業を終えて

### 宮川 由大先生



小田原市立  
芦子小学校  
教諭 (6年1組 担任)

講師のお話は貴重な機会であり、子どもたちに印象強く残りました。がんの発見・治療などの経緯だけでなく、そのときの気持ちを交えながら話してくださいました。それにより、子どもたちも自分に置き換えて気持ちにふれることができましたと思います。がんについての理解を深め、家族・友達・そして自分を大切にできる人になってほしいです。

### 真家 悠太先生



小田原市立  
芦子小学校  
教諭 (6年2組 担任)

授業を受ける前までは「がん」という病気に対して漠然としたイメージしかなかった子どもたちでしたが、授業後はがんについて正しい知識を得ることができました。検診を受けること・予防に努めることの重要性に気づいた子が多かったです。また、保護者に感想をもらうことで、学校と家庭がつながるよい機会にもなりました。

### 矢島 淳先生



小田原市立  
芦子小学校  
総括教諭 (6年3組 担任)

いつ誰がなってもおかしくない「がん」という病気の理解が深まり、予防・治療・患者への接し方などさまざまな視点で考えるきっかけとなりました。自宅に戻り、保護者と話題を共有できたのも貴重な経験だったと思います。小学校段階からこのような学習を繰り返すことで、命について深く考えることのできる子どもたちに成長してほしいと願っています。

## 実践例 ② 横浜市立すすき野中学校

### 概要

科目 保健体育  
登壇者 教師・がん経験者  
構成 知識+経験談+Q&A

目標 「がんについて正しく理解し、予防について考えられるようにする」「自分や、身近な人、社会のためにどんなことができるのか考える」  
経験談 がん患者のことを知ることで、健康と命の大切さについて主体的に考えることができるようにする



- 日時 2019年12月13日
- 人数 約250人
- 対象 2年生、3年生
- 時間 50分
- 場所 体育館

### 構成

合計50分

1. がんの基礎知識（教諭） 7分
  - ①ねらい：がんは死因1位、がんの原因（教諭）
  - ②がんの発生のしくみ（養護教諭）
2. がんの体験談（がん経験者） 25分  
「光の先に見えた景色」
  - ・がんになった経緯
  - ・あきらめないために私がしたこと
  - ・乳がん治療と副作用
  - ・「がん」と「がん患者」の正しい理解の大切さ
  - ・新たな試練～リンパ浮腫になって～
  - ・諦めても、失っても、また希望は生まれる
  - ・助けを求めること、手を差し伸べることの大切さ
3. 教えてください（質問生徒／回答講師） 10分
  - ・がんと知った時の気持ち
  - ・一番つらかったこと
  - ・支えになったこと
  - ・うれしかったこと
  - ・お金のこと
  - ・がんにならないために気を付けること
4. まとめ（教諭） 8分
  - ・がんの種類、治療、治療選択の大切さ
  - 感想記入
  - ・保健委員より講師へのお礼の言葉

## 授業を終えて

### 藤野 俊子先生

横浜市立すすき野中学校  
養護教諭



保健体育科の授業にチームティーチングで参加しました。生徒はがんの知識だけでなく、岩澤さんの経験談を聞きながら、がんになった人の気持ちを理解しようとしていました。この学習で感じたことや思ったことをさまざまな場面で生かし大切にしてくれたらうれしいです。

### 岩澤 玉青さん

外部講師  
乳がん経験者



学校側のご要望やご意見を伺いながら、25分の経験談と、生徒の質問に外部講師が答えるQ&Aの構成になりました。生徒全員がとても真剣に聴き入ってくれ、「がんに対し暗いイメージだったが希望を持って生きられることを知った」「身近な人ががんになったら支えられる人になりたい」「1日1日を大切にしたい」等の感想が寄せられました。

### 神奈川県教育委員会

教育局 指導部 保健体育課

事前打合わせを前月に学校で実施しました。打合わせ当初から、学校のニーズが明確であったことから、岩澤さんも授業のイメージがしやすかったのではないのでしょうか。外部講師の活用を計画する際は学校と協力をしながら、さまざまな授業立案を模索していくことが重要で今回はその良い見本となるような授業づくりができていたと感じました。

# 実践例 ③ 横浜市立南希望が丘中学校

## 概要

科目 総合学習  
登壇者 教師・がん経験者  
構成 知識+経験談+話し合い活動



### 目標

「がんについての正しい知識を得る」  
「命の大切さについて考える」

- 日時 2019年12月10日
- 人数 約139人 4クラス
- 対象 2年生
- 時間 85分
- 場所 体育館

## 構成

合計85分

### 1. がんに対する知識（保健体育科教諭） 30分

- ・がんとは（がんの要因等）
- ・がんの予防
- ・がんの早期発見・がん検診
- ・がんの治療法

### 2. がんの体験談（がん経験者） 20分

- 「もっと知ろう！がんのこと」
- ・がんになった経緯
- ・苦しみの中で支えてくれたもの
- ・たばこ、受動喫煙の恐ろしさ
- ・今を精一杯生きることの大切さ

### 3. ワークショップ・話し合い活動 10分

周囲はどのようなサポートが可能か？

### 4. まとめ・代表挨拶 5分

各クラスに移動（15分）

### 5. 振り返り・感想記入 20分

## 授業を終えて

### 土田 直美先生



横浜市立  
南希望が丘中学校  
養護教諭

がんを通して「生きていくこと」を考えてほしいと願っています。長谷川さんのお話は温かくかつ生きること正面から向き合う力強さを感じます。生徒はその言葉や思いを真摯に受け止めていました。今後、彼らの生き方を助けるものになるに違いありません。質問や意見が多く出たことは、教師と長谷川さんが一緒に実施した成果だと確信しています。

### 井上 武士先生



横浜市立  
南希望が丘中学校  
保健体育科教諭

普段からの信頼関係を存分に生かし内容が心に届くように努めました。生徒たちは、温かくも真剣な様子で、話を聴いたりワークショップに取り組んだりしていました。また、実際に自分ができるとは何かと、さまざまな場面を想定して考えることができたのは、生徒たちにとって大きな財産になったのではないかと思います。

### 長谷川 一男さん



肺がん経験者  
外部講師

生徒に考えを深めてほしい。その思いから話し合い活動を取り入れることに。「考えたこともない」「他人の意見が自分と違う」「自分事として考えられた」という感想が届きました。その後、挙手での質問も多く積極的に参加してくれた印象を持ちました。

# 実践例 ④ 横浜市立南戸塚中学校

## 概要

科目 保健体育  
 登壇者 医療者・がん経験者  
 構成 知識+経験談



目標 基礎知識  
 がんについて正しく理解できるようにする

経験談 健康と命の大切さについて主体的に考えることができるようにする

- 日時 2019年11月26日
- 人数 約340人
- 対象 2年生、3年生
- 時間 50分
- 場所 体育館

## 構成

合計50分

1. 講師紹介、導入（教諭）	5分	3. がんの経験談（がん経験者）	20分
2. がんの基礎知識（医師）	20分	4. まとめ	5分

- ・がんとは（発生のしくみ、原因等）
- ・我が国、神奈川県のがんの状況
- ・予防・早期発見・がん検診
- ・がんの治療法

- 「光の先に見えた景色」
- ・がんになった経緯
  - ・こどもも治療もあきらめないために私がしたこと
  - ・乳がん治療と副作用
  - ・これまで通り接し支えてくれた人たち
  - ・「がん」と「がん患者」の正しい理解
  - ・諦めても、失っても、また希望は生まれる
  - ・助けを求めること、手を差し伸べることの大切さ（がん患者の生活の質、理解と共生を中心に構成）

## 授業を終えて

**岡田 愛美先生**  
 横浜市立南戸塚中学校  
 養護教諭(実施当時)



がん経験者の方に講師を依頼するにあたり、よくも悪くも与える印象が強いことや、どういった方がいらっしゃるかわからないと不安がありました。それでも「がんと向き合う人々に対する共感的な理解を深めること」には、経験談が効果的な教材であると考えました。事前打ち合わせや資料の準備等細やかなご連絡をいただき、本校の実態に合った講演をしていただき大変ありがたかったです。また、岩澤様の人の心を惹きつけるお話に、他の職員も感心しておりました。

**山下 由希さん**  
 横浜市戸塚区  
 保健師(実施当時)



戸塚区では、区民向けにがん講演会を行ってきましたが、がん予防には若いうちからの生活習慣が大切であることを伝えるため、令和元年度は中学生を対象にがん教育を実施しました。がんについての知識も大切ですが、経験談は生徒が話に引き込まれ、がんを身近なこととして捉え、家族にまで思いをはせることができると感じました。生徒が家庭で話すことで、働く子育て世代へのアプローチもできると期待しています。

**岩澤 玉青さん**  
 外部講師  
 乳がん経験者



がん教育を初めて実施される学校で、事前打ち合わせはもちろん、何度もやりとりを重ねながら授業に至りました。先生方から積極的にご要望やご意見を頂けたことで、より南戸塚中に合った授業になったと感じます。当日は生徒全員が真剣に話に耳を傾けてくれ、「がんに対する見方が変わった」「将来自分もがんになるかもしれないので今日のことを忘れない」「自分も周りのがんの人を助けられる人になりたい」等、たくさんの感想を寄せてくれました。

# 実践例 ⑤ 横浜市立南希望が丘中学校

## 概要

科目 総合学習  
登壇者 がん経験者・患者家族(校長)  
構成 知識+経験談+Q&A



**目標** 「がんについて正しく理解する」周りの人ががんになったら自分たちに何ができるか？自分自身ががんにならないよう、予防の知識を得るとともに、がんになっても慌てず行動できるようにする。  
**経験談** がん患者の家族である校長先生の経験談を聴くことによって、自分事として考えることができる。

- 日時 2020年12月11日
- 人数 約150人
- 対象 2年生
- 時間 50分
- 場所 体育館

## 構成

合計50分

1. 挨拶・趣旨説明 (がん経験者) 5分
2. がんの基礎知識 (がん経験者) 15分  
ねらい 正しい知識を基に、がんに対するイメージと現実とのギャップを知り、行動を促す  
がんの発生数、がんの原因、発生のしくみ、がんの予防、検診
3. がんの経験談 (校長先生/家族) 10分
  - ・妻ががんになり、家族の心はゆれた
  - ・がんという病の知識が足りなかったから不安に...
  - ・仕事もあり余裕がなくなったが、周りの支えで進むことができた
  - ・自分と同じ境遇の人がいたら、助けてあげたい
  - ・がんに対する正しい知識が自分や家族を助ける
4. 教えてください (質問生徒/回答 校長先生・講師) 10分
  - ・中学生でもがんになることはありますか？
  - ・どのように防いだらいいですか？
  - ・自分ががんだと分かった時どんな気持ちでしたか？
  - ・がんは遺伝すると聞きましたが本当ですか？
  - ・ステージ4の末期がんはどれほど痛いのですか？
  - ・ストレスが原因でがんになりますか？
  - ・身近な人ががんになったとき、私にできることは？
  - ・なぜがんは2人に1人まで増えたのですか？
  - ・髪の毛が抜けるのはすべての薬でそうなのですか？
5. まとめ (校長先生 がん経験者) 5分  
生徒より講師へのお礼の言葉

## 授業を終えて

### 土田 直美先生

横浜市立南希望が丘中学校  
養護教諭



長谷川さんとの授業を積み重ねるうちに、こうしてみたいというアイデアを出し合えるがん教育になってきました。  
今回は、自分たちの校長先生がゲストティーチャー。今を生きることの大切さや人間の強さ、そしてお二方の温かく優しい気持ちが生徒に伝わっているのを感じました。

### 内田 克弥先生

横浜市立南希望が丘中学校  
校長



数年前よりがん教育の重要性を感じており、またがん患者の家族として、自分が経験したこと考えたことを話してみたいと思っていました。  
今回、長谷川さんと一緒に授業を行うことで、子どもたちががんに対して正しく理解し、今後の彼らの人生に生かしてくれるといいなと思っています。

### 長谷川 一男さん

肺がん経験者  
外部講師



今回の授業では、経験者として校長先生が登壇。身近な人の経験談を聞き、生徒たちは自分事として考えられたと感じています。  
事前質問に対し、なるべく多く答えるようにしました。なぜならその質問の裏側に、がんという病への怖さを感じられる場合もあるため、丁寧に返答していくことを心がけました。

# 実践例 ⑥ 神奈川県立二宮高等学校

## 概要

科目 保健  
登壇者 教師・がん経験者  
構成 知識+ Q&A



**目標** がんの疾病概念や予防等について基本的な知識を身に付ける

**経験談** がん患者に関わる諸問題に関心を持ち互いに支え合おうとする心を育む

- 日時 2019年11月14日
- 人数 約40人 1クラス
- 対象 1年生
- 時間 50分
- 場所 視聴覚室

## 構成

合計50分

### 1. がんの基礎知識（保健体育科教諭）20分

①導入Ⅰ：日本人に○人に1人クイズ  
（何人にひとりがあてはまるか）  
身近な事象でクイズを出す。  
最後にがんにかかる人の割合を示し、  
がんが身近な病気であることを印象付ける。

②導入Ⅱ：がんの疾病概念を理解する  
（1）がんの発生（2）がんの進行  
（3）がんの原因  
（4）がん検診の必要性を確認

### 2. がん経験者への質問（がん経験者）30分

展開：生徒2人がMCとして前に出て全員から質問を受け、講師がそれに答える形式

あらかじめ募集した11の質問に答えを用意  
（MCの生徒、先生のランダム質問にも答えた）

### 3. まとめ

＜がんを防ぐための新12か条＞の説明

## 授業を終えて

### 村中 優大先生

神奈川県立二宮高等学校  
保健体育科教諭



がんは「怖い」「絶対治らない」というイメージを持っていた生徒が多かったですが、授業後の指導ではがんに対して前向きな感想を持てるようになった生徒が増えました。講師との対話の時間では、普段あまり見ることのない生徒の真剣な表情がとても印象的で、生徒が自ら学ぼうという姿勢を感じ取ることができました。ありがとうございました。

### 松沢 千恵子さん

外部講師  
乳がん経験者



生徒が主体、先生とがん経験者が一緒につくる授業は新鮮でした。先生の楽しい導入とMC役の生徒のおかげで、皆さんとても熱心に取り組んでくれました。事前に先生が、生徒にがんについてのイメージや質問したいことを聞いていただいたことでスライドは作りやすかったです。ありがとうございました。

### 杉崎 弘周先生

新潟医療福祉  
大学健康科学部



授業導入では、保健体育科教諭がクイズやアニメーションを交えて基本的な知識を効果的に伝えていました。授業後半、ゲストティーチャーが生徒の質問に答える形式で進めたことで交流のある学習活動が実現。生徒にMCと質問者を任せたことは主体的に学ぶための工夫と言えます。全体を通して提案性のある授業でした。

## 実践例 ⑦ 神奈川県立二俣川看護福祉高等学校

### 概要

科目 看護リハ実習  
登壇者 がん経験者  
構成 経験談+Q&A



目標 「がんの方の心理や生活を理解する」

経験談 コロナ感染症のため、病院での実習が中止となり、実際に患者さんと接する機会がなくなってしまったため、体験談を聴くことによってがん患者の心理や生活を知る。

- 日時 2020年11月19日
- 人数 75人
- 対象 看護科2年生
- 時間 40分
- 場所 講堂

### 構成

合計40分

#### 1. がんの経験談 (がん経験者)

25分

- ・ 私の病歴
- ・ 若年性がんの問題点
- ・ 患者経験を生かして

#### 2. Q&A

(質問 生徒/回答 講師)

15分

- ・ がんが分かった時のことについて
- ・ がんになってつらかったこと
- ・ 治療中がんとどのように向き合っていたか
- ・ がんを経験したことによって考え方や生き方で以前と変わったこと
- ・ 治療中にかけてうれしかった言葉など

## 授業を終えて

### 池端 万須美先生

神奈川県立  
二俣川看護福祉高等学校  
教諭



本校看護科の生徒は看護師等を志して、目的意識を持ち学習に取り組んでいます。そのため、今回の講演では、がん患者さんの心理や生活、看護に生かせる内容を中心にお願しました。

事前に生徒が知りたいことを調査し講師にお伝えすることで、生徒の関心に合った心に響く講義内容となり、感謝しています。

### 伊藤 ゆき先生

神奈川県立  
二俣川看護福祉高等学校  
教諭



がんになった方の気持ちを理解する良い経験になったと思います。

「生きること」や「命」について考える機会となり、「一日一日を大切に過ごしたい」「患者様の心に寄り添える看護師になりたい」などの感想がありました。

この学習で学んだことを大切にして日々の生活や学習、将来の夢に生かしてほしいと思います。

### 多和田 奈津子さん

外部講師  
甲状腺がん・  
悪性リンパ腫経験者



先生と事前の打ち合わせができ、あらかじめ生徒から質問をいただいたことで、話す内容にも盛り込むことができました。その場でも積極的に質問が飛び交い充実した時間を過ごせました。

「話を聞いて、初めて理解できたことがあった。ますます医療従事者になりたいと思った」等感想をいただきました。

がん経験者

# 外部講師 紹介

2021

## がん経験者 外部講師とは

さまざまながんの経験者が、自分の経験を通して子どもたちに語ります。がん経験者やその家族は、子どもの成長を見守る親であったり、仕事をしていたり、皆さんと変わらない日常生活を送っています。

私たちに  
お任せください！



がん経験者  
として伝え  
たい  
メッセージ

講義の骨子  
です。対象  
年齢やご希  
望によって  
内容を変え  
ることもで  
きます。

### 外部講師紹介



**がんになって気付いたこと  
～生きていくことはそれだけで奇跡～**

**あいさん**  
乳がん 罹患年齢：42歳 (現55歳) 女性

**伝えたいメッセージ**  
2人に1人ががんになる時代、がんがどこまで広がらないこと、生きることとして自分や周りの人たちのことを考えながら生きていきたいです。

**講演内容**  
・本音が自分がんになるなんて、思いもしなかった  
・人の運命は、思いやりにも運命を運んでくれる  
・がんが運命、人の運命を運んでくれる、生きることとして自分や周りの人たちのことを考えながら生きていきたい  
・がんと向き合う中で気付いたこと  
・大切な人たちと、共に生きる



**「ひとりじゃない！共に生きる！」  
「知ることは力になる！」**

**あそちゃん**  
乳癌再発 罹患年齢：20歳 (現40歳) 男性

**伝えたいメッセージ**  
「今まで、がんについて何も知らなかったけど、経験談を聞いてみて、自分のこと、家族のこと、友達のこと、いろいろ考えてみよう！」  
とあってくられたメッセージです。

**講演内容**  
・体験談を聞いてから、思いから、がんにならないと思っていた自分  
がんと闘った経験  
・深くも深くも闘った闘い (闘病記) との経験  
・知ることは力になる (闘病記) の変化  
・闘病と向き合い、家族とも向き合うということ  
・「考え方は変わる、生きるとはこう」ということ  
・うれいことと辛い闘いから、笑顔になれることもたくさんあるということ



## がんになって気付いたこと ～生きていることはそれだけで奇跡～

あいさん

乳がん 罹患年齢：42歳（現在50代） 女性

### 伝えたいメッセージ

2人に1人ががんになる時代。  
がんイコール死ではないこと、身近なこととして自分や周りの人たちのことを考えながら聞いて頂けると嬉しいです。

### 講演内容

- ・まさか自分ががんになるなんて、思いもしなかった
- ・人の優しさ、思いやりに支えられてきた
- ・その反面、人の言葉に傷ついたり、生活する中で困ったことも...
- ・健康でいるのは当たり前のこと？
- ・がんになっても、自分らしく輝いて生きることはできる
- ・がんと向き合う中で見えてきたもの
- ・大切な人たちと、共に生きる



## 「ひとりじゃない！共に生きる！」 「知ることは力になる！」

あそちゃん

精巣腫瘍 罹患年齢：20歳（現在40代） 男性

### 伝えたいメッセージ

「今までは、がんについて何も知らなかったけど、経験談を聞いてみて、自分のこと、家族のこと、友達のこと、いろいろ考えてみよう！」  
と思ってくれたらうれしいです。

### 講演内容

- ・体を鍛えていたから、若いから、がんにならないと思っていた自分
- ・がんと結婚の同時進行
- ・良くも悪くも揺れ動く心（気持ち）との葛藤
- ・知ることによる心（気持ち）の変化
- ・病気と向き合い、家族とも向き合うということ
- ・支えられると支える。支え合うということ
- ・うれしいことや心強いこと、笑顔になれることもたくさんあるということ



## 私の幸運 ～がんがくれたもの～

あべちゃん

MDS（骨髄異形成症候群） 罹患年齢：47歳（現在50代） 女性

### 伝えたいメッセージ

自分の未来のために知って・感じて・考えてみてほしい。  
そして自分の周りの人たちを大切に、自分の可能性を信じてほしい。

### 講演内容

- ・「がん＝死」ではないこと
- ・がんになったら「いろんなことを諦めなければいけない」なんていうことはない
- ・家族や周囲の人の思いが分かるからこそ自分を大切にしようと思えるようになった
- ・がんになったからこそ、やりたいことが次々と見つかるようになった
- ・今の自分にできることが、これからの自分にできることにつながる



## 血液のがんを経験して気付いたこと

あましん

悪性リンパ腫 罹患年齢：27歳（現在40代） 男性

### 伝えたいメッセージ

27歳でがんを経験したことは不運かもしれませんが、不幸だとは思いません。  
一日一日を大切に生きることを知り、多くの支えの中で生きていけると感じます。

### 講演内容

- ・2000年27歳のときに、血液のがんである悪性リンパ腫を発症
- ・リンパ腫は血液のがんの1つで治療は化学療法（抗がん剤）などが中心
- ・治療に伴う副作用や再発も経験し、嫌なこともあった
- ・がんになると普段は気にもしない景色が美しく、全く違って見えた
- ・「地球はこんなに美しい。もっと見たい」との思いが湧いてきた
- ・治療に後ろ向きだった自分を後押しするようになった
- ・「一日一日を大切に生きることの意味」を知った



## 今、がんの私から伝えたいこと ～3つのやってみよう～

**オア**

乳がん 罹患年齢：36歳（現在30代） 女性

### 伝えたいメッセージ

自分、そして大切な人などに、いつ舞い降りてくるか分からない「がん」という人生のピンチ。そのとき思い出してほしいこと3つ。

### 講演内容

- ・治療中、諦めずにチャレンジしてみて得たこと
- ・人からかけられた思いやりの経験談
- ・正しい知識、信頼できる情報を調べることの大切さ
- ・身近に「がん」が舞い降りてきても、恐れすぎず、今その時を生きることの大切さ
- ・がん経験を通して伝えたい、3つのメッセージ
  - ① 考えて選んでみる ～自分のやりたいことは何？～
  - ② 調べてみる ～やりたいことに近づくため、自分にできること～
  - ③ 想像してみる ～がんになって感じた、思いやりって何か？～



## 今、大切にしていること ～人生いちどきり～

**くみさん**

乳がん 罹患年齢：41歳（現在50代） 女性

### 伝えたいメッセージ

今、大切にしていることは何ですか？  
「いのち」「時間」「人の温かさ」そして周りが大切に思ってくれている「あなた自身」を大切に生きてほしいです。

### 講演内容

- ・「がん」のイメージ
- ・乳がんと言われて
- ・治療中に起こったこと
- ・がんになってからの生き方
- ・「がん」をテーマに、自分が困難に出会った時に本当に自分にとって大切なものは何かを考える時間を共有したい



## なったらなくても ～16歳でがんになってから～

**すず**

急性リンパ性白血病 罹患年齢：16歳（現在50代） 女性

### 伝えたいメッセージ

がんに対してのイメージを受けとめながら、少しでも正しい知識と理解を持ってほしい。限りある時間、日常生活の中でさまざまな人たちに助けられているということ。

### 講演内容

- ・16歳（高校1年生）の時に発病、2年留年して復学
- ・治療で一時的に容姿が変わった状況で、通院しながら学校へ通う
- ・2歳年下との同級生や先生との学校生活での苦労とうれしさ
- ・遅れても、障壁があっても、自分を取り戻せること
- ・何気ない日常に周囲の助けがあることの気付き
- ・がんでも生きていられること
- ・自分自身を大切にしてほしいという思い



## 光の先に見えた景色 ～「がん」と「がん患者」を知ろう～

**たまちゃん**

乳がん 罹患年齢：41歳（現在40代） 女性

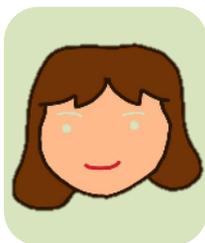
### 伝えたいメッセージ

がんになっても人生終わりではありません。人生思い通りにいかないことや、どうにもならないことがあるけど、諦めても失ってもまた希望は生まれてくることを知りました。たくさんの支えがあって生かされていると感じています。

### 講演内容

- ・がんになった経緯、告知を受けてからの心の葛藤
- ・乳がん治療と副作用
- ・うれしかったこと、悲しかったこと
- ・私を支えてくれた人たち、支え支えられることの大切さ
- ・がんの経験から得られたこと
- ・光の先に見えた景色

※患者目線で自分事として考えてもらえるように、質問を投げかけながら話を進めます。講演時間やメッセージ、盛り込む話題など臨機応変に対応させていただきます。



## 【生きるちから】 その時あなたならどうしますか？

たらこ

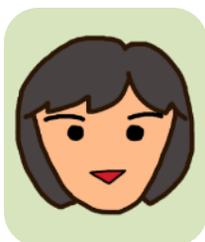
白血病 罹患年齢：57歳（現在50代） 女性

### 伝えたいメッセージ

生きてると予期せぬことはたびたび起こる。その時、どう捉えて動くか。「生きるちから」を高めるために、心の持ちようで何かが変わるとしたら、いま何ができるだろう。

### 講演内容

- ・ 仕事に空手と体力自慢で突っ走っていたある日、体に起きた異変
- ・ 血液のがんという診断を受けて感じたこと、周囲の反応
- ・ つらかったことより楽しかったことの多かった入院生活
- ・ 献血と骨髄ドナーのこと
- ・ 引き算ではなく、足し算で生きる
- ・ 受けたご恩を自分だけのものにしないため、今の自分にできることを



## がんになったとき、治療、その後 ～未来へ生きる皆さんへ～

トモッチ

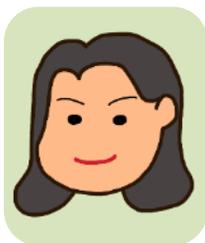
乳がん 罹患年齢：36歳・55歳（現在60代） 女性

### 伝えたいメッセージ

突然やってきた1回目のがんと、19年過ぎてまた来た2回目のがん。自分の経験から、自分や周りの人ががんになったとき知っていてほしいこと、これから未来に生きる皆さんに希望をもって生きてほしいことを伝えたいと思います。

### 講演内容

- ・ がんにかかってから、初めて知ったことや考えたことが多くある
- ・ 2回のがん治療と現在までの振り返り
- ・ 「がんとはどんな病気？治療は？その後どう生きる？」
- ・ 「同じ病気の仲間との出会い」
- ・ 「そのとき家族・周りの人はどうしたらいい？」
- ・ 「未来はとても明るい」
- ・ 自分のがん経験と、そこから学んだことを伝えたいと思います



## 若年がんを経験して、 生きていくということ

**なっちゃん**

甲状腺がん・悪性リンパ腫 罹患年齢：16歳・25歳（現在40代） 女性

### 伝えたいメッセージ

がんは特別な誰かの病気ではありません。がんの経験を聞くことで、「自分事」と身近に捉え、考えるきっかけにしてほしい。若くしてがんになったことで、想像していた人生とは違いましたが、思いがけない新しい希望も見つけました。

### 講演内容

- ①わたしの病歴  
甲状腺がんで手術、血液がんの悪性リンパ腫で放射線、抗がん剤治療を経験
- ②若年がんならではの問題点  
進学や就職、結婚など人生の変化が激しい時期のがんや後遺症との向き合い方
- ③患者経験を活かして  
仲間を得たことで力を得ることができた、経験は財産になる



## くじけそうになった時 ～あなたは1人じゃない～

**ナナ**

すい臓がん 罹患年齢：53歳（現在50代） 女性

### 伝えたいメッセージ

がんになり、人は人の支えがあってこそ希望が湧くことを痛感した。自分が困難に直面した時、助けを求める方法を伝えたい。また、周りの人がつらい時、支えられる人になってほしい。

### 講演内容

- ・すい臓がんってどんながん？なぜ希望を見失いそうになったのか
- ・自分の体を大切にしよう
- ・生きていれればいいこともあれば、上手くいかないことも...でも必ず立ち上げられる
- ・どん底からの立ち直り方...お勧めの方法3つ
- ・つらい時、支えてくれる家族や友達がいたからこそ元気になれた
- ・希望をもたらしてくれるのは、人とのつながり



## あるがまま

**のどか**

直腸・大腸・小腸がん 罹患年齢：39歳（現在70代） 女性

### 伝えたいメッセージ

“がん”は怖がらなくてもよい時代。  
障がいがあろうと“がん”と共に生きることになろうと『あるがまま』に受けとめ、  
今を大切に生きる

### 講演内容

- ・オストメイト、ストーマについて
- ・排泄の悩みや失敗は家族にも話せないけれど...仲間と笑い飛ばし元気になる
- ・排泄は命にかかわる大切なこと
- ・リンチ症候群（遺伝性の大腸がん）、子、孫...とがんが発症する可能性
- ・私にできること、情報収集、学び、伝える
- ・『あるがまま』に受け止め、家族、娘、仲間に支えられ笑顔になれた



## 今できる方法を考える ～がんとオストメイトになった夫～

**はしもん**（患者家族） 女性

直腸GIST（夫） 罹患年齢：47歳（現在50代）

### 伝えたいメッセージ

今できる方法を考えることで困難を乗り越えられるかもしれない。  
希少がんとオストメイトの夫が、家族と前を向いて歩く話を通じて、  
諦めないことを伝えたい。

### 講演内容

- ・希少がんのGIST患者でオストメイト(人工肛門・人工膀胱)の夫の話
  - ・さまざまな葛藤を乗り越えて家族と共に前向きになっていく過程
- ①クイズ形式で自己紹介
  - ②がんとオストメイト：「自分ならどうする？」と生徒に語りかけながら話を進める
  - ③まとめ：困難な時に、今自分ができる方法を考えることを伝える



## 今、知っておこうがんのこと ～後悔しないために～

**はせちゃん**

肺がん 罹患年齢：39歳（現在50代） 男性

### 伝えたいメッセージ

もし自分ががんになったとき慌てないために、もし友人や大切な人ががんになったとき支えられるように、今、知っておくべきことがある。  
自分や周りの人を大切に生きてほしい。

### 講演内容

- ・振り返ってみると、がんにかかってから初めて見えた景色がある
- ・悪いことも良いことも両方
- ・「がん＝死」ではない
- ・がんの知識が偏っていて人を傷つけることがある
- ・人の優しさ、家族のありがたさ
- ・たばこがいかに人の人生を狂わせるか...
- ・がんになっても自分らしく生きようと思えば、いつでもそう生きられる
- ・がん教育の目標をしっかりと見据え、困難に向き合う中で感じた思いを伝えたい



## たお **静けさと勇氣と叡智** したた 嫺やかにしなやかに、そして強かに

**ポンちゃん**

乳がん 罹患年齢：46歳（現在60代） 女性

### 伝えたいメッセージ

柳のように嫺やかにしなやかに、そして強かに生きていきたい。生きてほしい。

### 講演内容

- ・がんと診断されるまで、治療が始まって、今無治療となって
- ・揺れ動く心、気持ちの変化
- ・支えてくれた人、支えとなったもの・言葉、すべてに感謝
- ・がんになるということは、I have a cancer.であってI am a cancer.なのではない
- ・今を大切に、どんなときも生き生きと
- ・がんになっても自分らしく生活できる優しい社会の実現を願って



## がんを経験して気が付いたこと

**まるこ**

GIST（消化管間質腫瘍） 罹患年齢：38歳（現在40代） 女性

### 伝えたいメッセージ

健康の大切さ（身体を大切に）、思いやり（相手の気持ちに立って考える）、ありがたいきもち（毎日の生活は当たり前ではない）という3つのテーマを、希少がんの経験を通してお伝えします。さまざまな経験は、その先に向かう力になる。

### 講演内容

- ・希少がんとは（1年間に新たに診断される患者さんが10万人に1人）
- ・まわりに同じ境遇の人がいない時のつらさや不安について
- ・自分の気持ちを誰かに相談する勇気
- ・再発と転移で抱えた思い、もらった思いやりを誰かに返していく
- ・病気を自分のこととして受け止め、治療しながら生きていく決心
- ・今の時間を大切に



## 母さんの乳がん 子どもたちと向き合う親のがん

**みどさん**

乳がん 罹患年齢：45歳（現在50代） 女性

### 伝えたいメッセージ

がんだけでなく、生きてると色々なことが起こる。  
そんな時には、今できることを考えてほしい。  
今を精一杯生きて、生きる力を身につけてほしい。

### 講演内容

- ・自己紹介（アイスブレイクを兼ねて）若いころの仕事や家族の話
- ・乳がんの発見の経緯（しこりを放置、友人に勧められてクリニックを受診）
- ・がんの告知を受けた時の気持ち（家族への想い、息子たち〔当時中3・小6〕）
- ・がん治療、抗がん剤治療時の脱毛の様子（写真あり）
- ・親のがん、子どもたちの生活（母親へのサポートや思いやり）
- ・しこりがあるのに放置していた私に、病院へ行くように説得してくれた友人
- ・知識を持つことで、また声を出し伝えることで誰かを助けられる
- ・生徒さんと一緒に考える時間にできればと思います



## がんについて知ろう！

**めいちゃん**

乳がん 罹患年齢：46歳・56歳（現在50代） 女性

### 伝えたいメッセージ

ご家庭でがんという言葉聞いたことはありますか？もし、家族や大切な人ががんになったら、なんて声をかけたらいいのでしょうか？がんについて知りたいことはありますか？がんに関わるいろいろな問題について、一緒に考えてみましょう！

### 講演内容

- ・「がんってなんだろう？」がんになるメカニズムを簡単な言葉で伝えます
- ・「私のがん体験」実際にがんになった経験をお話します
- ・「がんから学んだこと」がんになって気が付いたことをお話します
- ・文部科学省のがん教育目標を踏まえて、上記3つのテーマをもとに、子どもたちにとって大切な「生きる力」を伝えます
- ・担当の先生との話し合いを重視し、生徒さんの雰囲気大切にしながら、伝わる言葉でお話します



## 乳がんが私に教えてくれたこと

**もりたまちゃん**

乳がん 罹患年齢：44歳（現在40代） 女性

### 伝えたいメッセージ

自分のがん治療と周囲の人の寄り添いから、自分が生きていることが大事と気付く。自分が病気になった時にどうするか？命があるからできる幸せを伝えていきたい。

### 講演内容

- ・生きるために病気を見つけて治療する、すべては生きるため
- ・病気の治療には、体のパワーと心のパワーが必要と気付く
- ・心のパワーは、自分の前向きな気持ちと周囲の寄り添いだった
- ・寄り添ってくれる人の温かさ
- ・小学生の母が病気になって、我が子に対してどう思ったか
- ・「今、ここに生きる」「いてくれてありがとう」を伝えたい
- ・がんでも明るく生きている姿を見てもらいたい



## 強く強く在れ<sup>あ</sup>

やっちゃん

軟骨肉腫 罹患年齢：45歳（現在40代） 女性

### 伝えたいメッセージ

困難でも勇気を持って立ち向うこと。  
人の力の有難みと感謝の言葉は伝えること。  
ヘルプマークを持って生きる人に力を貸して下さいね。

### 講演内容

- ・働き盛りにまさかの罹患・左踵広範切除〔踵(かかと)を失う。身体障がいを持つ〕
- ・がんに罹患し障がいを持って、日常に戻り、仕事と治療の両立をしている
- ・主治医の言葉「すべてが終わった訳ではない。新しく造り直す」
- ・希少がんゆえの孤独
- ・幸いにも肉腫患者会とつながることができ「ひとりでは乗り越えられないことでもみんながいれば、立ち向かえる」ことを知る
- ・困難でも億することなく、強く、戦え。行動することが大事
- ・目的と対象年齢をご教示頂き「私の場合」でストーリーをお伝えします



## 未来からのエール

ゆうちゃん

乳がん 罹患年齢：35歳（現在40代） 女性

### 伝えたいメッセージ

喜びと希望に溢れていた時に突然のがん告知。  
がん治療と新しい命の誕生に向き合った経験を通して  
行動が新しい扉が開くきっかけになるということをお伝えします。

### 講演内容

- ・妊娠中のがん告知
- ・どん底からの希望
- ・正しい知識は必ず味方になってくれる
- ・つらいことや悲しいことも知らず知らずのうちに乗り越えてきたはず
- ・正しい情報を探して冷静に行動しよう
- ・過去の自分と今の自分を比べ成長している部分を見よう



## がん患者の私から 中学生（小学生、高校生）の皆さんへ

よーちゃん

乳がん・胃がん 罹患年齢：45歳・47歳（現在50代） 女性

### 伝えたいメッセージ

がんの闘病経験を通して、家族や友人、会社の仲間の優しさに触れました。その中で考えた「幸せに生きるとは」をお伝えすると同時に、皆さんにも幸せに生きることについて考える契機として頂きたいと思います。

### 講演内容

- ・私のがん治療歴（手術、抗がん剤、放射線治療）
- ・幸せに生きるとは
  - ①自分がやりたいことをやる
  - ②家族や仲間を大切にする
  - ③知らない誰かの役に立つ



## がんは嫌だが役にも立つ

よしださん

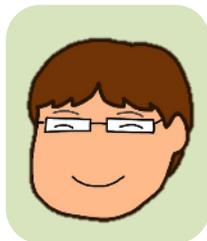
卵巣がん 罹患年齢：38歳（現在30代） 女性

### 伝えたいメッセージ

人生にはさまざまなライフイベントがある。がんもそのうちの1つ。正しい情報を得て決断したり、時には周りに相談しながら自分オリジナルのキャリア（人生）を紡いでいこう。

### 講演内容

- ・自己紹介
- ・卵巣がんのこと
- ・治療の選択ってどうするの？
- ・治療費を助けてくれる日本の制度のありがたさ
- ・みんなが実行できる、苦しんでいる人たちへの働きかけのやり方
- ・生活はどう変わっていったか、がんを見つけてもキャリアは紡いでいける
- ・大人もがんのことを知らない人が多い。経験したことを伝え社会を変えていく



## 私のがん体験 ～命の大切さ～

弘一

肺がん 罹患年齢：49歳（現在50代） 男性

### 伝えたいメッセージ

生きていることは当たり前のことではありません。  
家族や仲間とのつながりを大切に。  
今この瞬間、毎日を少しでも楽しんで生きていきましょう。

### 講演内容

- ・がんになるとは思いもしなかったが突然の告知
- ・これまで考えていた「がん＝死」ではない
- ・家族、仲間、病院のスタッフみんなが支えてくれる
- ・日々生きていられることのすばらしさ
- ・家族、仲間とのつながりの大切さを実感
- ・私は私、かわりのない自分である
- ・命は大切！！



## がんを経験して気付いたこと

EKKOさん

乳がん 罹患年齢：54歳（現在60代） 女性

### 伝えたいメッセージ

人生最悪とも思える出来事：がん経験をどう生きるかは自分次第  
新しい自分の発見や、新たなつながりを作ることができるかもしれません。

### 講演内容

- ・「がんにかかってもおしまいじゃない」 がんと共に生きる時代
- ・「ひとりじゃないと思えることが心の支えに」 がんを経験して得た新しい出会い
- ・「何かできることがあるはず」 準備する心は未来を変える

## 外部講師依頼に関する Q&A

「がん教育」を共に作るにあたりよくある質問をまとめました。ご依頼の際の参考になさってください。



### Q. 授業枠や内容について

日時や所要時間、人数など授業の進め方は選べますか？

A. はい。学年ごと／クラス単位、日程や時間などをお聞かせください。また、講義へのご要望を伺い、それに適した外部講師をご紹介します。必要に応じて複数の講師による講義も実施可能です。

### Q. 講師料や交通費について

講師への謝礼や交通費はかかりますか？

A. 2021年度は費用はかかりません。皆さまと共に、より良いがん教育を作るところからスタートしたいと思っております。

### Q. 打ち合わせについて

打ち合わせはどのように進めますか？

A. 実施前に打ち合わせをさせていただきます。対面／オンライン、どちらの方法にも対応いたします。

### 打ち合わせの進め方

- ① 関係作り：外部講師と学校側、お互いの顔が見える関係作り
- ② 目標の共有：ご要望に沿った授業の組み立てと、不安・疑問点の解消
- ③ 必要な配慮の確認：それぞれの教育現場に合わせた配慮の検討
- ④ 機材やツールの確認
- ⑤ 授業に使う資料の共有：当日までに双方で確認

※必要に応じて随時メールなどでフォローさせていただきます。

### Q. 話の内容について

怖い話や不安を感じる話をすることはありますか？

A. 「外部講師を活用したがん教育ガイドライン」（文部科学省）で外部講師の留意点として示されているように、怖さのみを強調したり、児童生徒の不安をむやみにおおるのではなく、「自他の健康と命の大切さを主体的に考えることが充実した人生につながる」という積極的なメッセージを含むよう心がけています。

### Q. 生徒からの質問について...

講師の方に質問をしても良いのでしょうか？

A. 大丈夫です。児童生徒の幅広い興味にお応えいたします。講義を行う講師は研修にてQ&Aの対応を学んでいます。がんの知識については、間違えた事を伝えないようエビデンスに基づいてお答えしていきます。また、経験談に対するご質問については、個人の経験をベースに誠意をもって対応いたします。事前に集めた質問に答える形式の他、その場での質疑応答、ワークショップや話し合い活動につなげるなど、臨機応変に対応いたします。

### Q. 「配慮」について

身内ががんに罹患した生徒がいるのですが

A. 共に授業を作り上げる中で、相談しながらその場に適した配慮を心がけてまいります。

「外部講師を活用したがん教育ガイドライン」（文部科学省）に、児童生徒の中に小児がんの当事者、家族をがんで亡くした、またはがん患者がいる場合、児童生徒の存在が把握できる場合はもとより把握できない場合についても配慮が求められるとあります。配慮の例として「外部講師によるがん教育の実施を保護者へ周知し家庭からの情報を得る」「限定的な内容に特化しないよう事例を一般化するなどの工夫」などが挙げられます。

その他に分からないことが  
あればお気軽にご連絡ください



# 「令和2年度がん教育研修会」開催報告

令和2年8月8日（土）23日（日）／10月17日（土）18日（日）全日オンライン開催

神奈川県がん患者団体連合会は、学校／行政／医療関係者と専門家を講師に招き4日間のがん教育研修会を開催しました。外部講師希望者だけではなく、学校教員や行政担当者も、多数ご参加いただきました。がん教育外部講師として必要なスキルの向上を図り、多くの外部講師が新たに誕生しました。

## がん教育研修1日目（8月8日）

### ■講演

- ①「子どもたちに伝えるがんの知識とは」  
片山 佳代子氏  
神奈川県立がんセンター臨床研究所／主任研究員
- ②「がん教育外部講師への期待」  
助友 裕子氏  
日本女子体育大学体育学部健康スポーツ学科教授
- ③「令和2年度がん教育の実践について」  
浦田 奈々美氏  
神奈川県教育委員会指導担当主事

### ■パネルディスカッション&質疑応答

### ■グループトーク

### ■模擬授業

「実践例～学校教員とがん患者外部講師連携授業」

井上 武士先生（南希望ヶ丘中学校）

長谷川 一男氏（神奈川県がん患者団体連合会事務局長）

## がん教育研修2日目（8月23日）

### ■講座

アナウンサーから学ぶ話し方講座 佐々木 美佳氏

### ■ワークショップ

「経験を伝える」とグループ発表

### ■講座

スライド作成ワンポイント講座

岩澤 玉青氏（神奈川県がん患者団体連合会監事）

## がん教育研修3・4日目（10月17日、18日）

### ■外部講師希望者による模擬授業

自分の経験を20分で発表。具体的なフィードバックによる授業のブラッシュアップを実施。

※模擬授業は、当研修のみならず、フィードバック研修や登壇前ブラッシュアップなどで研鑽を重ねてまいります。

外部講師希望者は「全がん連がん教育eラーニングシステム」を利用し、がんの基礎知識を習得したうえで研修会に参加しました。

### 全がん連 がん教育 eラーニング

全がん連 がん教育



全がん連ホームページにアクセス。eラーニング(インターネット学習)を受講できます。外部講師希望者の方は開催までに受講してください。

[http://zengancn.jp/?page\\_id=1825](http://zengancn.jp/?page_id=1825)

全がん連 eラーニング 検索

【主催】（一社）神奈川県がん患者団体連合会

【共催】神奈川県/神奈川県教育委員会

【後援】相模原市教育委員会/川崎市教育委員会/横浜市教育委員会/横浜市市民局/

令和元年度横浜総合医学復興財団医学・医療関連事業助成金/（一社）全国がん患者団体連合会（順不同、敬称略）

※かながわボランティア活動推進基金21協働事業負担金対象事業として実施されました

# 神奈川県がん連 加盟団体

あけぼの神奈川

おしゃべりバティー

神奈川県立がんセンター患者会「コスモス」

一般社団法人 がんと働く応援団

一般社団法人 グループ・ネクサス・ジャパン

相模原協同病院がん患者会「富貴草」

聖マリアンナ医科大学病院 乳がん体験者の会「マリアリボン」

頭頸部がん患者と家族の会「Nicotto（ニコット）」

NPO法人 肺がん患者の会ワンステップ

ハートプレイス

ピアサポートよこはま

一般社団法人 ピアリング

若手がん患者会ローズマリー

NPO法人 Company de company Pink Ribbon YOKOHAMA

G I S T E R S 神奈川



<表紙写真>母親のがん治療中に誕生した男児

がん経験者外部講師を活用するがん教育のハンドブック  
知るから始めるがんのこと～未来のために伝えたい～

2021年3月19日発行

発行人 天野慎介

発行元 一般社団法人 神奈川県がん患者団体連合会

住 所 神奈川県横浜市港南区笹下二丁目1番12号小西屋事務所

メール office@kanagawa-kenganren.jp (代表)

ウェブサイト <http://www.kanagawa-kenganren.jp/>

編 集 岩澤玉青 平塚歩 福田ゆう子(表紙写真/デザイン) 吉田ゆり



神奈川県がん連

この冊子はかながわボランティア活動推進基金21協働事業負担金対象事業として作成されました